

# 再考、寛政小型二朱銀（仮称）

細川 一彦

本誌二〇一一年九月号の記事、「寛政二朱銀および文政二朱銀についての一考察」において、文政二朱銀と

ほぼ同じサイズであつて文政二朱銀とは表裏両面の書体が異なり寛政大型二朱銀と表裏両面の書体、地肌等が良く似た二朱銀が存在することを説明し、これを寛政小型二朱銀（仮称）と命名しました。

さらに、本誌二〇一四年九月号の記事「寛政小型二朱銀（仮称）についての続報」にて、同二〇一一年九月号の記事に掲載した寛政小型二朱銀（仮称）と表裏両面の書体及び地肌が酷似した二枚目の寛政小型二朱銀（仮称）を紹介しました。

このとき、比較のため参照した大型額縁の二朱銀は寛政小型二朱銀（仮称）とは表面書体が異なっていたため通常の文政二朱銀として扱いました。

ところが、その後、これらの寛政小型二朱銀（仮称）とは類似するも

の、細部で違いがある新たな大型額縁の二朱銀を入手しました。

そこで、今回入手した新たな大型額縁の二朱銀と合わせて、これまでの寛政小型二朱銀（仮称）および参照した大型額縁の文政二朱銀を再度詳細に調査しました。

その結果、これら寛政小型二朱銀（仮称）を含めた大型額縁の二朱銀には、通常の文政二朱銀とは異なる共通点があることが判明しました。以下、この点に関して詳しく説明致します。

寛政二朱銀小型二朱銀（仮称）との共通点

今回は説明を明確にするため、表裏両面写真とともに、良く特徴が出ている左右両側面の写真も合わせて掲載しました。

さらに、細かな相違点について前回同様、比較表も掲載しましたので、こちらを参照願います。

また、今回の表に記載されていない項目については、「参考資料3」及び「参考資料4」の表も合わせて参照願います。

なお、これら大型額縁の二朱銀と比較参照する文政二朱銀としては、今回も書体が最も類似する楷書体で表面下あき直片で裏面閉じワ是を選びました。

主な掲載写真について説明すると、写真①は今回入手した新たな大型額縁の二朱銀（以下、二朱銀Ⅰとする）、写真②は二朱銀Ⅱ（寛政小型二朱銀（仮称））、写真③は二朱銀Ⅲ（寛政小型二朱銀2（仮称））、写真④は二朱銀Ⅳ（前回文政二朱銀として比較参照した大型額縁二朱銀）、写真⑤は文政二朱銀Ⅴ（今回新たに比較参照する文政二朱銀）で、その他の写真については説明の都度紹介します。

まず今回新たに入手した写真①で示す大型額縁の二朱銀Ⅰについて簡

単な説明をします。表裏両面の書体

及び左右側面の平行鑿処理が写真②の二朱銀Ⅱの寛政小型二朱銀（仮称）と類似していますが、つぶさに見ると表に示す細かな相違点があり、その中でも表面鑿字大の左右二点の点位置が上にあがっている、上点鑿である点で二朱銀Ⅱとは明らかな相違がみられます。

さて、これら寛政小型二朱銀（仮称）を含めた大型額縁の二朱銀（Ⅰ～Ⅳ）には通常の文政二朱銀（Ⅴ）とは異なる共通点があると上述しましたが、この共通点とは、以下箇条書きした五点です。

(1) 表面の小的の右点が文政二朱銀より高位置にあり、右肩上がりとなり左右アンバランスに見える。(○印)

(2) 裏面の常字の5画冠のハネが文政二朱銀とは異なり5画冠の終端部からいきなり、左向きの三角点に

てやや斜め下向きに跳ねている（○印）。

(3) 裏面の是字7画の横棒が文政二朱銀の裏面が閉じワ是ではトゲ（先細）であるところ、トゲ是でなく、非トゲ是である（○印）。

(4) 左右側面の表面処理である鑿（ヤスリ）目が文政二朱銀の鑿目と比較し目が細かい。

(5) 摩耗や損傷のない状態の側極印がほぼ一列に等間隔できれいに打印されている。

以上、二朱銀Ⅰ～Ⅳで共通する文政二朱銀との相違点につき箇条書で説明しましたが、重要項目についてさらに詳細な補足説明をします。

### 常字5画と是字7画の特徴

まず、(2)の常字5画のハネについてですが、写真⑤の部分拡大写真⑤



(1)



(2)



(3)

aの○印で示すように、文政二朱銀Vの裏面の常字の5画冠のハネは終端部から降下部により一度下方に直角（垂直）に降下してから左向きの三角点にて折返し状に水平に跳ねているという、降下部と三角点の二段階の構成となっている。

この際、三角点の上辺は水平方向を向き、下辺が斜め上方向を向いている。

これに対して、二朱銀（Ⅰ～Ⅳ）では、裏面の常字の5画冠のハネが5画冠の終端部からいきなり、左向きの三角点にてやや斜め下向きに跳ねているという、降下部を有さず三角点のみの一段構成となっている。

この際、三角点の上辺は斜め下方向を向き、下辺が水平方向を向いている。



部分拡大写真⑤ a

次に、上記(3)の是字7画が非トゲ是である点は、裏面が閉じワ是の文政二朱銀においては、トゲ是と明確に規定されているので、これらの二朱銀は、この文政二朱銀のルールから完全に逸脱していることになる。

この点に関して私見を述べさせて頂くと、これらの二朱銀Ⅰ～Ⅳは非トゲ是である寛政大型二朱銀の書体を取りあえずそのまま継承し、試打ち程度に大型額縁品を少量生産し、その後、文政時代になってから本格的に大量生産するため、文政二朱銀では文政以前に発行されたと推測される、これらの二朱銀との区別を容易にするため、意図的に裏面書体が閉じワ是のものはトゲ是とこれまでとは逆になるよう変更したものと推測する。

なお、写真⑤では、二種類ある閉じワ是のうち、裏面銀字が開きヨ銀の通常のを掲載しましたが、参考写真⑥として裏面が手替りの閉じヨ銀の閉じワ是も掲載しました。

この閉じヨ銀の閉じワ是の場合にも文政二朱銀のルールに従ったトゲ是であることが確認できる（○印）。従って、写真⑤と参考写真⑥の二種類ある裏面閉じワ是のいずれにお

いても文政二朱銀のルールに従ったトゲ是であることが確認できる。

さらに、参考写真⑥の裏面の常字の5画冠のハネは、終端部から写真⑤のように直角ではなく少し外向きに降下してから左向きの三角点にて折返し状に水平に跳ねているという、降下部と三角点の二段階の構成であり、手替りの閉じヨ銀の場合にも上記した通常の文政二朱銀Vと同じハネの構成であることも確認できる（○印）。

さらに付言すると、文政二朱銀より数年後に発行された文政（新南鐐）一朱銀においても、常字ハネの二段階構成及びトゲ是、非トゲ是のルールは文政二朱銀とまったく同じであることから、常字のハネの構成とトゲ是、非トゲ是のルールは時代考証を行う上で非常に重要な点であることが理解できると思います。なお、文政二朱銀及び文政一朱銀では降下部が垂直でなく完全に斜めの物も多く存在する。



参考写真⑥：文政二朱手替閉じヨ銀